

▶平成20年5月18日(日)

ちょっとしたこと...ではないのです。

もちろん、ケアレスミスなどと言って見逃してはいけないことです。

$$(1) 0.3(-3) - \dots - 1$$

$$(2) 0.3(-3) - \dots - 1 = 0$$

かなりできる子でも、(1)の計算を次のようにやることがあります。

$$(1) 0.3(-3) - \dots - 1$$

$$= 3(-3) - \dots - 1$$

$$= \dots$$

「小数を払っている」つもりなのでしょうが、まちがいです。

小数は払えません。

少し賢いものだから、分数や小数はすぐ払うと計算が易くなることを使いたがるのですね。

それは等式の場合に限られることで。

両辺に同じ数をかけても、等式は成り立つという等式の性質からくるのですが、等式の性質は「知っている」が、使えない生徒がかなりおります。

2つの式を並べてそのちがいを意識させながら学習する機会を持たせる必要があります。

文字式と方程式の違いを専門的に学習する教材を紹介しましょう。

◀ 【 まちがいをさせない教材 】 ▶

インターネットを使った通信教育用教材(生徒の自学自習用教材)の紹介です

方程式
14h

2 方程式の解き方(その6)
方程式と文字式

クリック